Teku-Teku
FEATURE

山梨の山

一歩踏み入れると待ち受けるかけがえのない感動

北岳

Teku-Teku FEATURE

豊かな自然と生物の多様性 南アルプスという奇跡

はるか昔、海底から生まれ 今もなお、隆起し続ける 美しくもあり雄壮な峰々

日本を代表する山岳地帯である南アルプスの大部分は、プレートの動きによって、赤道付近の海底の堆積物などが移動し、隆起したことにより形成されたと考えられています。300万年前ごろはまだ起伏のない低地でしたが、100万年前ごろから急速に隆起し始めたとされ、現在でも1年に3ミリ以上隆起し続ける非火山性の大きな山容は重厚感があります。隆起する山地の内部では、雨が多い気候により河川が侵食されてできる深いV字谷や、隆起の影響で崩壊してできる地形が見られるのも南アルプスの特徴です。

「氷河期の遺存種」が生きる自然の宝庫

南アルプスは日本列島のほぼ中央に位置し、温暖多雨な気候の影響で、森林限界も標高約2600メートルと高く、標高1600メート

ル付近までの山地帯ではブナなどの広葉樹林、2600メートル付近までの亜高山帯ではシラビソ、コメツガなどの針葉樹林が分布しています。それ以上の高山帯ではハイマツや高山植物の群落があり、キタダケソウなどの希少な固有種を含む多様な植物を見ることができます。また南アルプスの豊かな森林には多くの動物も生息しています。高山帯の象徴であり、国の特別天然記念物であるライチョウは世界の生息地の南限となっているほか、ホンドオコジョや高山性のチョウなど、希少な動物たちの多様な生態系があります。

なぜ、南アルプスにはキタダケソウやライチョウといった希少な種が生息しているのでしょうか。それは氷河期と深い関わりがあるといいます。氷河期の日本は大陸と陸続きで、大陸の動植物が日本にやってきました。その後、大陸と離れ気温が上がり始めると、これらの動植物は生きるために寒冷な地を求め、標高の高い地域に生息するようになったとされます。南アルプスの高山帯に孤立するように生きている動植物は「氷河期の遺存種」と呼ばれています。

近代登山の発展と芦安の人々の献身

南アルプスは、古くから信仰の場であり、平安時代に編さんされた「古今和歌集」にも登場しています。南アルプスが信仰ではなく山を楽しむための登山である「近代登山」の場となっていったのは、明治政府が招いた外国人の多くが日本の山々に引かれたことが影響したと考えられます。その中の一人がイギリス人宣教師で登山家でもあるウォルター・ウェストンです。ウェストンが南アルプスの山々を登り、著書「日本アルプス再訪」にその魅力を記したことなどから、南アルプスの存在は世界に広まっていきました。そのような近代登山の発展を支えたのが、山仕事や狩猟の経験を生かして山の案内人を務めた地元芦安村（現南アルプス市）の人々でした。山に真摯（しんし）に向き合い、登山者のために献身的に活動して「芦安の案内人」と名をはせた人々もまた、登山の歴史に残る忘れてはならない存在です。こうして近代登山の先駆けとなった南アルプスは、今もなお多くの人々を引きつけてやみません。

キタダケソウは、北岳の高山帯に咲く多年草で、北岳の限られた場所にしか生育していない固有種。雪が解ける6月～7月ごろ、花の季節の到来を告げるように白くかれんな花を咲かせる

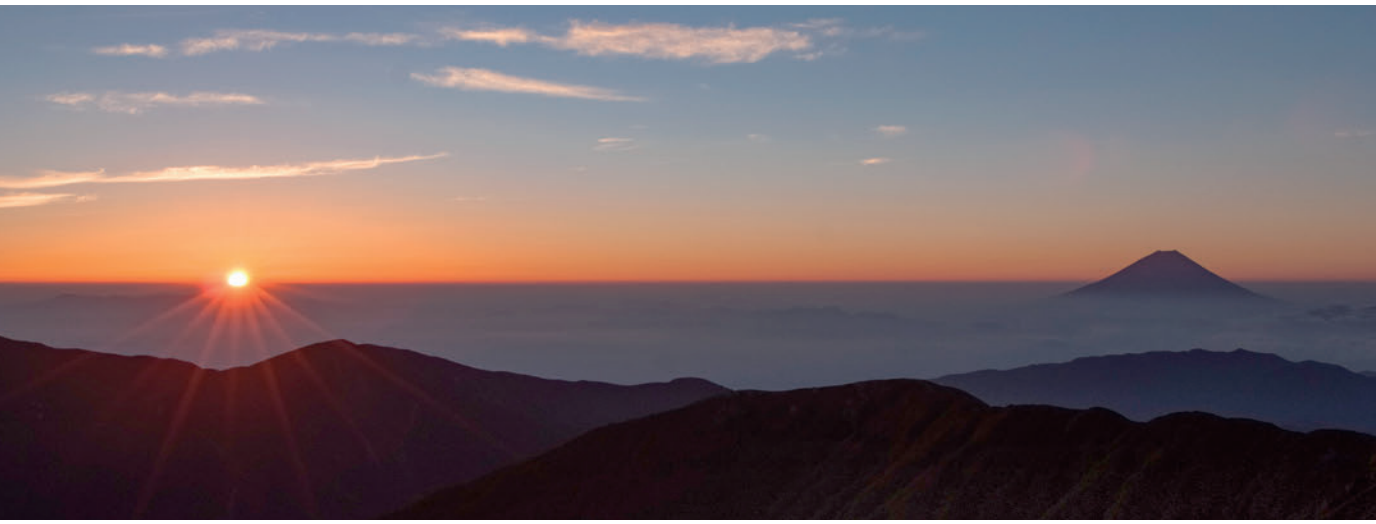
北岳の雪渓

ライチョウ

山岳文化と貴重な自然
山と親しむ交流ミュージアム
南アルプス市芦安山岳館

「南アルプス市芦安山岳館は、平成15年の開館以来、山岳文化の発掘・継承をはじめ、調査研究や教育、自然保護、安全登山の普及、南アルプスの自然と共に生きた人々の歴史など、幅広い分野についての情報を発信しています。館内の常設コーナーは、南アルプスの自然を知る『山に学ぶ』、近代登山を支えた人にスポットを当てた『山に登る』、人々の仕事と暮らしを振り返る『山に生きる』、山と信仰、民話や史跡から歴史を探る『山の喜び』の4つのテーマで構成しています。他にも豊富な山岳図書の展示や白根三山のライブ映像の放映、趣向を凝らした企画展の開催のほか、地域活性化を目的に活動するNPO法人芦安ファンクラブ主催の登山教室の拠点になるなど、人々の交流の場としての役割も果たしています」

南アルプスの自然と歴史が学べる展示室


北岳から望む富士山と御来光

南アルプス市
ユネスコエコパーク推進室
廣瀬　和弘さん

誰もが楽しめる山岳館へ

「当館の魅力の一つは、国内屈指の蔵書数を誇る山岳図書があることです。初代館長である塩沢久仙さんは、南アルプスの広河原山荘で管理人を務め、登山者救助や自然保護にも尽力する傍ら、ライフワークとして膨大な山岳図書を収集しました。また多くの山岳関係者からも図書を寄贈していただいています。現在もそれらの整理を進めているところです。

また、学術的な資料の展示だけでなく、少しポップな要素をプラスした企画展や、家族で楽しめるイベントの開催などにも取り組み、これまであまり山に関心がなかった方や、若い世代の皆さんにも楽しんでいただきたいと考えています。誰もが気軽に楽しめる山岳館として、ゆっ

いずれも南アルプス市芦安山岳館展示品

企画展
KIKIフォトエッセイ展「日常は麓に置いて」
令和2年3月10日(火)まで開催

山と登山を愛し、執筆も手掛けるモデルのKIKIさんが、南アルプスの山々で「ここはわたしの場所かもしれない」と感じる瞬間を切り取った写真とエッセイを展示中。彼女の視点が捉えた柔らかな印象の写真から伝わる心地よさ。思わず山に行きたくなるフォトエッセイ展。

たりとした時間と空間を提供していくことも大切にしたいと思っています」

ユネスコエコパークとして

「豊かな自然が広がり、それによって形成された多様な文化などの価値が認められ、南アルプスは平成26年にユネスコエコパークに登録されました。国内に10カ所あるユネスコエコパークの中でも、南アルプスほど多様な生物が生息する地域はまれです。これは非常に誇らしいことであり、地域の宝物です。しかし同時に、この宝物を守り継いでいくことは、地域に課せられた役割でもあるのです。地域の人にとっては当たり前に存在し続けてきたこの自然を見つめ直し、維持していくことの大切さを伝えるためにも、当館では常に時代を意識した情報発信をしていきたいと思っています」

南アルプス市芦安山岳館

南アルプス市芦安芦倉1570　TEL.055-288-2125
入館料：大人500円、小学生以下250円
休館日：水曜日（祝日の場合はその翌日。夏季は開館）
開館時間：9:00～17:00

北岳の玄関口「広河原山荘」を訪ねて

北岳をはじめとする南アルプス北部の登山拠点である広河原に山荘が建てられたのは昭和60（1985）年。現在は、初代管理人の塩沢久仙さんの跡を継ぎ、息子の塩沢顯慈さんが2代目として管理人を務めています。顯慈さんは、訪れる人にくつろぎの時間を提供しながら、登山者の安全を見守り続けています。広河原でバスを降り、北岳を仰ぎ見ながら、つり橋を渡って、林に囲まれた広河原山荘を訪ねました。

山梨の豊かな食材を使い食を通して山と向き合う

「私は物心つく前から山小屋に遊びにきていましたが、身近にある良さには気付かないもので、調理の専門学校で勉強し20歳でこの山小屋の仕事に就いた頃は、今ほど山が好きだという気持ちはなかったんです。しかし、遭難救助や登山ガイドに携わるなど、山との関わりが深まってきた26歳のとき、父から山荘を引き継ぐことになりました。その時、どう山に立ち向かうかは、自分次第だと思い、大好きな『食』を通して山に向き合っていくことに決めたんです。山で採れた山菜や、地元の生産者の野菜や肉

など、山梨の食材を用いて作った料理を山で食べていただきたいと思い研究しました。食を通して地元の生産者やお客さんなどと新たな人間関係が築けたことも良かったと感じています」

山は誰にも平等だからこそ守ってほしいことがある

「南アルプスは、登山口が奥まっていて登山ルートも少ないので、他の山に比べて登山者も少なく、多くの自然が残されています。山にはいろいろな表情があり、誰にでも平等だからこそ、山頂を目指して歩いたり、走ったり、花を見たり、雨の日を楽しんだりするなど、人それぞれの楽しみ方が見つけられると思います。ですが、山に入るときには守るべきことがあります。何も持ち込まず、持ち出さず、そして登山届を提出するなど最低限のルールの厳守はもちろん、山に入る目的が違う他者を尊重する気持ちを持たなければいけません。

登山は数あるスポーツやレジャーの中でも死亡者の数が非常に多いです。私も数多くの遭難救助に当たり、残念ながら亡くなった方、ケガをした方を見てきました。山に入る以上、そういうことにも向き合わなければなりません。例えば野球をするのにバットが必要なように、登山にも必要不可欠な装備があることを忘れないでほしいと思います。登山のスタイルは時代と共に変化するので、私もその変化に柔軟に対応できるよう、最新の情報を得ることを心掛けています」

広河原山荘管理人

塩沢 顯慈さん

「父が写真家の白籏史朗さんと親交があったので、私の名前『顯慈』は白籏さんが付けてくれたんですよ」と笑顔で話す顯慈さん。話題が豊富な顯慈さんとお話しするのも広河原山荘での楽しみの一つ。

広河原

先人からの継承と自分だからできることの追求

「父が亡くなり3年ほど経ちますが、どれだけ自分が父に守られてきたかを実感し、また父の業績の大きさも知りました。私は山の世界では一生下っ端という気持ちがあります。父や先輩方が築いてきたものは、受け継がなければならないと思っています。しかしその一方で、自分なりに新しいものを取り入れていくことも必要だと考えています。もともと山が好きというわけではなかった私が、山小屋で働き、今ではこの仕事が好きになったのも、楽しめるようになったからだな、と実感しています。まるで親戚のような存在の他の山小屋の人たちや、次世代の山小屋を担ってくれるであろうスタッフや仲間たちに囲まれて仕事ができることに、私は今とても幸せを感じています」

広河原山荘

TEL.090-2677-0828
地産地消にこだわった食事が人気。
令和3年6月に新築し、移転する予定。